

# 第5編 舗装

1. 舗装情報の構成	5-1
1-1 構成	5-1
1-2 作成概要	5-2
2. 舗装情報の作成方法	5-3
2-1 作成単位	5-3
2-1-1 舗装データの作成単位	5-3
2-1-2 箇所番号の関連性	5-4
2-1-3 「舗装データの作成単位」と「箇所番号の関連性」	5-5
2-2 作成タイミング	5-6
2-3 作成者	5-6
2-4 作成内容	5-7
3. 舗装情報の作成定義	5-8
3-1 基本定義	5-8
3-1-1 建設箇所番号・修繕箇所番号の設定方法	5-8
3-2 【削除】基本資料情報	5-10
3-3 工事情報	5-11
3-3-1 工事情報	5-11
3-3-2 建設箇所	5-14
3-3-3 修繕箇所	5-19
3-3-4 設計データ	5-23
3-3-5 設計データ（箇所番号テーブル）	5-25
3-3-6 舗装構成変更履歴	5-26
3-3-7 舗装構成変更履歴（箇所番号テーブル）	5-28
3-3-8 アスファルト混合物	5-29
3-3-9 【削除】アスファルト混合物（半たわみ性アスファルト）	5-35
3-3-10 【削除】アスファルト混合物（グースアスファルト）	5-35
3-3-11 【削除】アスファルト混合物（改質・ロールドアスファルト）	5-35
3-3-12 【削除】アスファルト混合物（高機能舗装）	5-35
3-3-13 アスファルト混合物箇所番号	5-35
3-3-14 【削除】骨材	5-36

3-3-15	【削除】骨材箇所番号	5-36
3-3-16	【削除】粒状・セメント安定処理	5-36
3-3-17	【削除】粒状・セメント安定処理箇所番号	5-36
3-3-18	【削除】施工管理試験	5-36
3-3-19	【削除】施工管理試験箇所番号	5-36
3-3-20	【削除】コンクリート舗装	5-36
3-3-21	【削除】コンクリート舗装箇所番号	5-36
3-3-22	【削除】コンクリート舗装・骨材	5-36
3-3-23	【削除】コンクリート舗装・骨材箇所番号	5-36
3-3-24	【削除】コンクリート舗装・日常管理試験	5-36
3-3-25	【削除】コンクリート舗装・日常管理試験箇所番号	5-36
3-3-26	【削除】使用機械（混合）	5-36
3-3-27	【削除】使用機械（混合）箇所番号	5-36
3-3-28	【削除】使用機械（敷きならし）	5-36
3-3-29	【削除】使用機械（敷きならし）箇所番号	5-36
3-3-30	【削除】使用機械（締固め）	5-36
3-3-31	【削除】使用機械（締固め）箇所番号	5-36



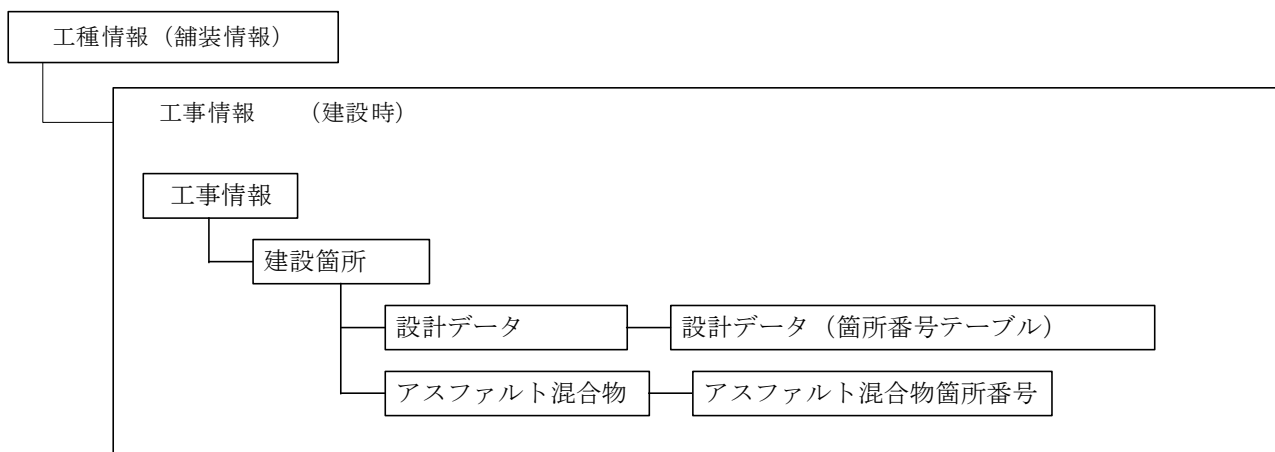
1. 舗装情報の構成

1-1 構成

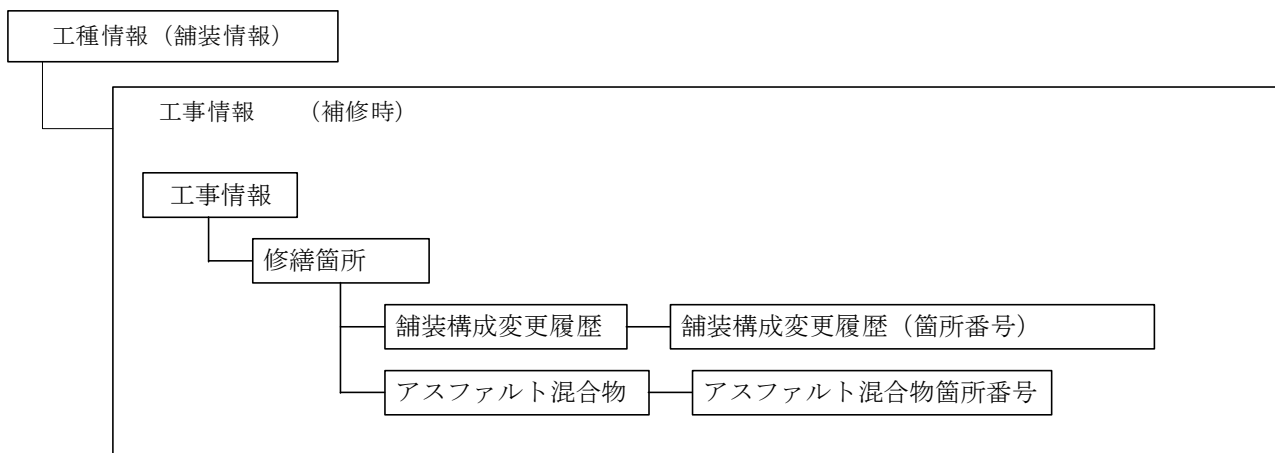
舗装情報とは、舗装工事の内容を取りまとめたしゅん功書類の1つであると共に、管理部門への引継ぎ資料とするものである。舗装情報のデータ活用は、高速道路に存在する舗装の管理・資産状況を把握する上での基礎データとなるものであり重要な情報である。

舗装情報の構成は、工事記録収集システムでデータ入力(作成)を行う「工事情報」から成る。なお、工事記録収集システムへのデータ入力の際に参照した平面図、詳細図等は、必要に応じて監督員に提出すること。

《建設時》



《補修時》



1-2 作成概要

舗装情報作成にあたり「工事情報」「建設箇所」「修繕箇所」「設計データ」「アスファルト混合物」「車線管理」の各情報がある。基本的なデータ作成区分について次表に一覧表で示す。また、データ作成の際に基本とする考え方を次頁、作成単位、作成タイミング、作成者に説明する。作成内容では、各項目でのデータ作成に際し記載しているが「2-1. 作成単位」を踏まえデータ作成を実施すること。

データ作成区分表

情報項目	作成単位	作成内容	作成タイミング		作成者		
			建設時	補修時	会社	受注者	
						設計	舗装
工事情報	1工事件名ごと	高速道路における舗装の位置を示す。	○	○	△	△	○
建設箇所	施工箇所ごと	施工年月、施工箇所の道路構造、面積を示す。	○	—	—	△	○
修繕箇所	施工箇所の舗装層ごと	施工年月、施工箇所の道路構造、面積を示す。	—	○	—	—	○
設計データ	舗装構成ごと	建設時の舗装構成を示す。	○	—	—	△	○
設計データ(箇所番号テーブル)	データ関連の個数分	「建設箇所」と「設計データ」のデータ関連を示す。	○	—	—	△	○
舗装構成変更履歴	舗装構成ごと	補修時の舗装構成を示す。	—	○	—	—	○
舗装構成変更履歴(箇所番号テーブル)	データ関連の個数分	「補修箇所」と「舗装構成変更履歴」のデータ関連を示す。	—	○	—	—	○
アスファルト混合物	表層・基層・路盤ごと	層種別、データ種別、表・基層 粗骨材配合等を示す。	○	○	—	—	○
アスファルト混合物箇所番号	データ関連の個数分	「建設・補修箇所」と「アスファルト混合物」のデータ関連を示す。	○	○	—	—	○

※ 記号の凡例 ○：データ作成 △：一部作成 —：作成無

## 2. 舗装情報の作成方法

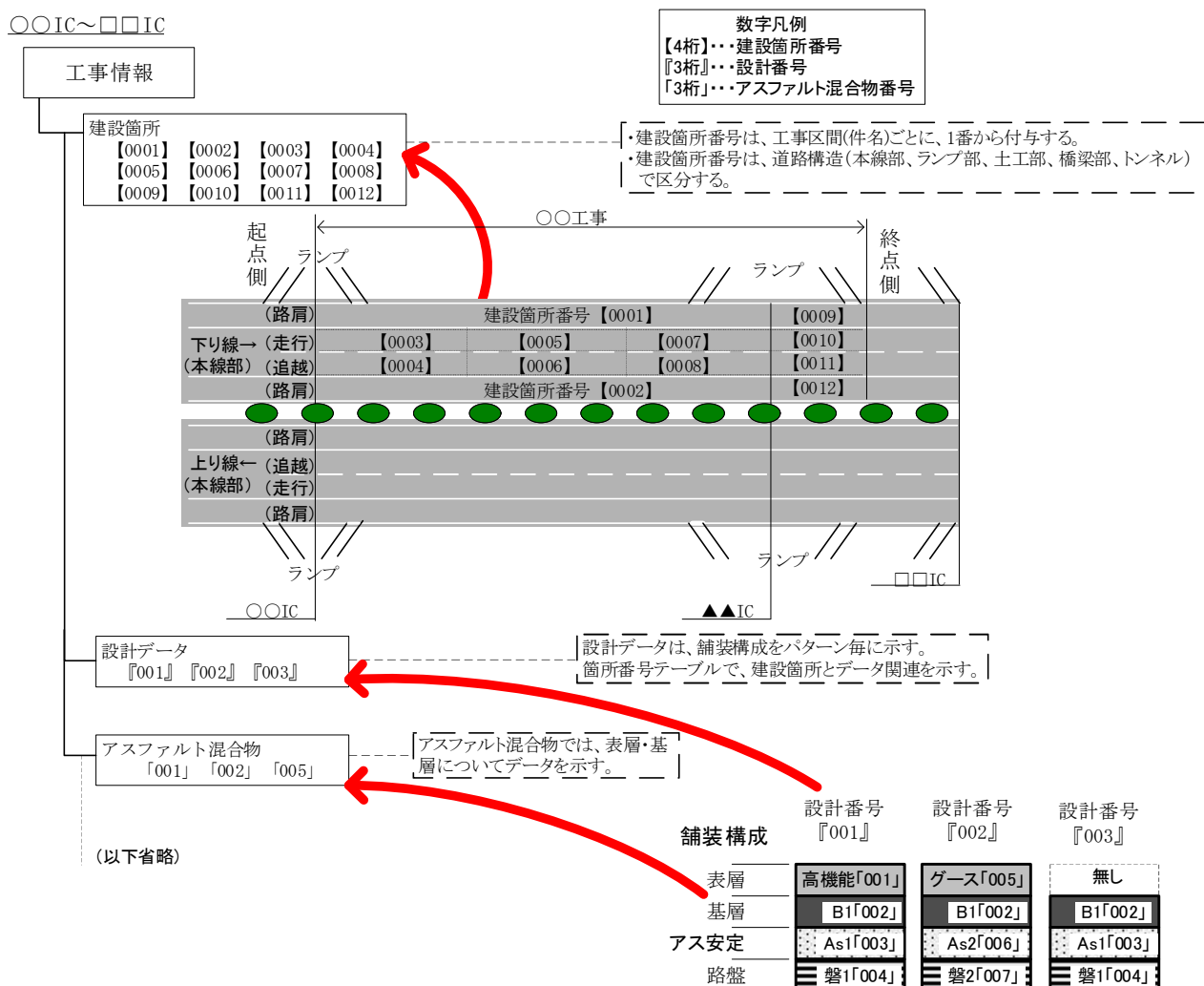
### 2-1 作成単位

作成単位では、舗装データ作成の考え方を「2-1-1. 舗装データの作成単位」に示すとともに、各舗装の情報と箇所番号の関連を「2-1-2. 箇所番号の関連性」に示す。また、舗装データと箇所番号を合わせたデータ作成イメージを「2-1-3. 舗装データの作成単位と箇所番号の関連性」に示すものである。

#### 2-1-1 舗装データの作成単位

データの作成対象とする舗装は、会社が管理する本線（連絡休憩等施設含む）に存在する全ての舗装とする。

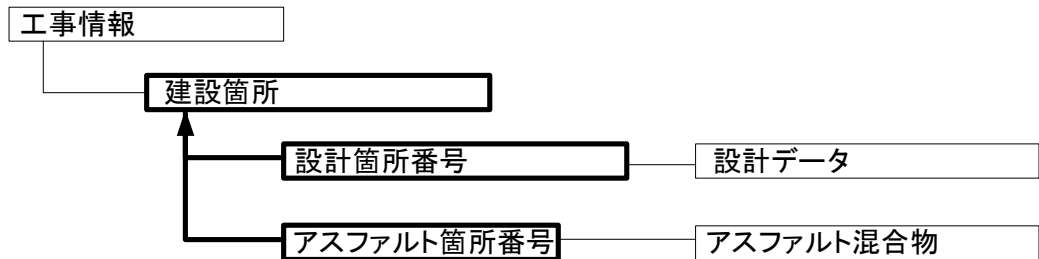
舗装のデータ作成単位は、1 工事毎、道路構造毎、舗装構成毎に、データを区分し作成する。



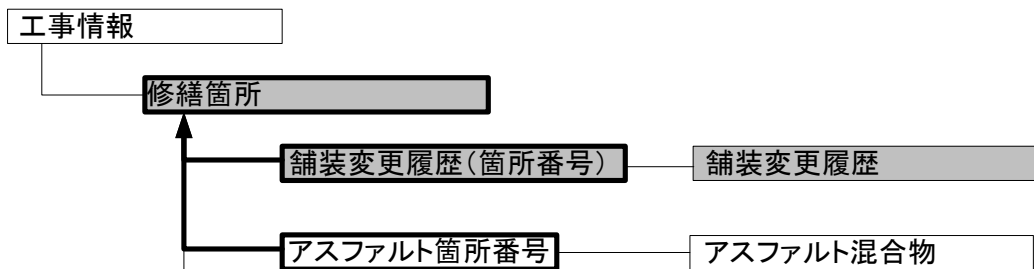
2-1-2 箇所番号の関連性

舗装情報では、各情報で作成したデータと施工箇所(建設箇所・修繕箇所)とを〇〇箇所番号でデータの関連性を示す様になっている。そのデータと箇所番号の関連について、下図にイメージを示すものである。

**舗装情報関連概念図(建設時)**



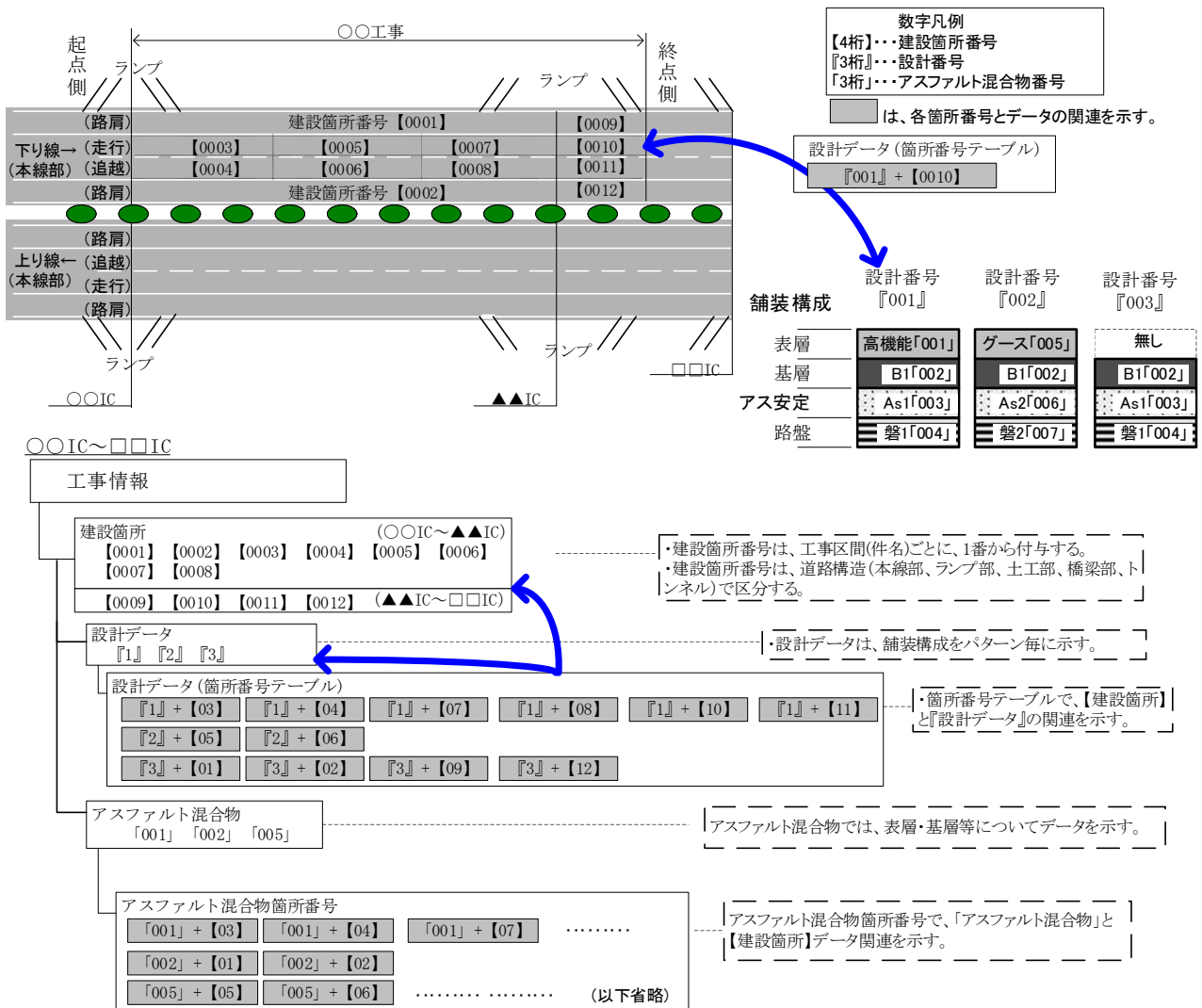
**舗装情報関連概念図(補修時)**



(以下、建設時と同様)

2-1-3 「舗装データの作成単位」と「箇所番号の関連性」

データ作成のイメージと箇所番号の連携イメージについて示すものである。施工箇所（建設箇所番号/修繕箇所番号）と舗装構成、舗装合材等で各々作成したデータを「箇所番号」で連携する。データ作成と箇所番号の連携イメージについて下図に示す。





## 第5編 舗装

### 2-2 作成タイミング

舗装データを作成するタイミングは、「建設時」「補修時（供用後管理段階）」の2つに大別される。

なお、工事記録収集システムへのデータ入力は、工事等の進捗に併せて適宜実施すること。

#### (1) 建設時

建設時でのデータ作成は、設計完了時に設計受注者が基本情報を作成して、しゅん功検査までに完成させ提出する。完成データは舗装工事に引き継がれる。

舗装工事では、当該工事の進捗に併せて適宜データ作成を舗装工事受注者が実施し、工事しゅん功時には完成させ提出すること。

#### (2) 補修時

補修時（供用管理段階）においては、舗装工事受注者が当該工事の内容を工事の進捗に併せて適宜データを作成し、工事しゅん功時には提出すること。

また、補修時（供用管理段階）の拡幅工事におけるデータ作成は建設時と同様とする。

### 2-3 作成者

建設時におけるデータ作成者は、設計時に設計受注者が「建設箇所」を作成し、舗装工事完成時に舗装工事受注者が当該舗装工事に該当する全データを作成する。

補修時（供用後管理段階）においては、舗装工事受注者が当該舗装工事に該当する全データをデータ作成する。

#### (1) 建設時

作成者	作成内容
監督員	「工事情報」の作成及び業務内容とデータ内容を確認する。
設計受注者	「建設箇所」「設計データ」等を作成する。
舗装工事受注者	当該舗装工事に関するすべてのデータを作成する。

#### (2) 補修時

作成者	作成内容
監督員	「工事情報」の作成及び業務内容とデータ内容を確認する。
舗装工事受注者	当該舗装工事に関するすべてのデータを作成する。

## 2-4 作成内容

## (1) 【削除】

## (2) 工事情報

工事記録収集システムに入力する主なデータ項目は以下のものがある。

情報名	主な項目
舗装基本情報	道路名、IC名、工事番号、施工区間、上下線区分、ルート区分、完成暫定区分、測点、設置箇所、連絡等施設名 他
建設箇所	建設箇所番号、車線番号、施工年月、場所区分、構造物、舗装種別、車線、舗装面積、IC・SA等、橋梁、トンネル 他
修繕箇所	箇所番号、車線番号、補修年月日、場所区分、構造物、舗装種別、車線、舗装面積、IC・SA等、補修理由、補修工法、配合区分、施工層の厚さ 他
設計データ	設計番号、CBR、交通量、換算舗装厚、 コンクリート版設計基準曲強度、コンクリート版横目地間隔 舗装：第1～7層の層種別・層厚、総舗装厚 路床：第1～4層の種別・厚さ・代表CBR・使用形態 他
設計データ(箇所番号テーブル)	(設計番号、建設箇所番号)
舗装構成変更履歴	舗装構成変更番号 舗装：層種別、舗装・層厚(第1層から第7層)、総舗装厚 路床：種別、路床・厚さ、代表CBR・使用形態・使用材質、(第1層から第4層)、
舗装構成変更履歴(箇所番号テーブル)	(舗装構成変更番号、箇所番号)
アスファルト混合物	アスファルト混合種別番号、層種別、データ種別、 表・基層：粗骨材配合 5～7号、細骨材配合 スクリーニングス、細骨材配合 粗砂・細砂・フィラー配合 フィラー、フィラー配合内消石灰等の割合、加熱後指示粒度 37.5～0.075mm アス安定：粗骨材配合 粒径 A1・A2・A・B1・B2、アス安定 粗骨材配合 粗骨材 B、細骨材配合 細骨材、フィラー配合 フィラー内消石灰等の割合、骨材配合 1層の施工厚、加熱後指示粒度 37.5～0.075 mm アスファルト量 1：突固め回数、理論最大密度、見掛密度、表乾・かさ密度、安定度、空隙率、フロー値、混合温度 1、突固め温度、残留安定度、温度、動的安定度、最適アスファルト量 アスファルト量 2：混合温度 2、混合時間、針入度級、アスファルトメーカー、比重、針入度、軟化点、針入度指数、薄膜加熱質量変化率、薄膜加熱針入度変化率、薄膜加熱後の軟化点
アスファルト混合物箇所番号	箇所番号(建設・補修)

ただし、工事情報の内容を確認するために下表の資料について、必要に応じて 監督員に提出すること。

資料名	資料の概要
平面図	舗装の位置を示すもので、箇所番号を付与したもの。
詳細図	縦断図、横断図、標準横断図、詳細平面図、そのほか詳細図

3. 舗装情報の作成定義

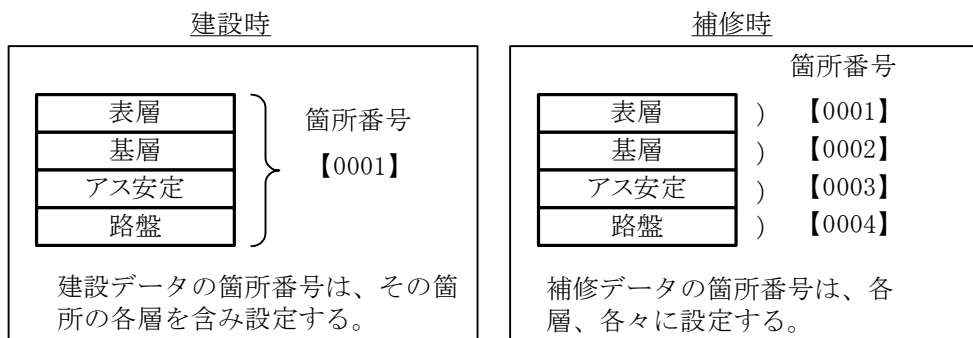
3-1 基本定義

基本定義では、舗装データの作成において基本となる箇所番号の付与方法について示すものである。

3-1-1 建設箇所番号・修繕箇所番号の設定方法

建設時における箇所番号は、1 工事単位で、その IC 区間・施工場所、構造物種別及び舗装種別により舗装範囲を限定し、これに箇所番号を付与するものである。なお、箇所番号を明記した図面を作成し提出する。

また、補修時における箇所番号は、1 工事単位で、その補修場所、構造物種別、車線（車線部と路肩部）、舗装種別、補修原因、補修工法、施工層により舗装範囲を限定し、これに（箇所番号）を付与するものである。なお、建設時と同様箇所番号を明記した図面を作成し提出する。



箇所番号の設定例について、下表に示すケースを以下に示す。

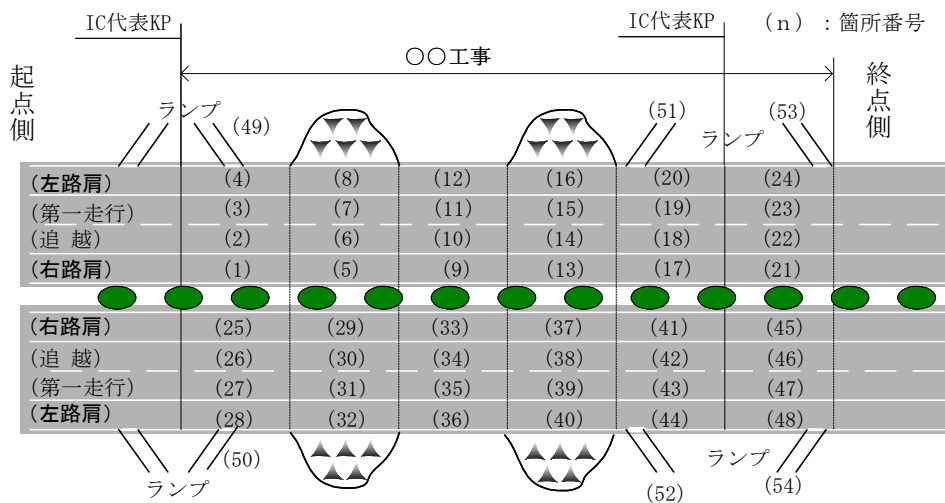
項目	ケース
(1)	建設時の箇所番号
(2)	舗装改良工事、床版改良工事
(3)	補修時の構成

(1) 建設箇所番号

本線部の走行, 追越および路肩部を区分し, 1 工事毎に 1 番からユニーク (重複しない) となる箇所番号を 4 桁までで付与する。

道路構造 (土工部・橋梁部・トンネル) 毎に区分し, 箇所番号を付与する。

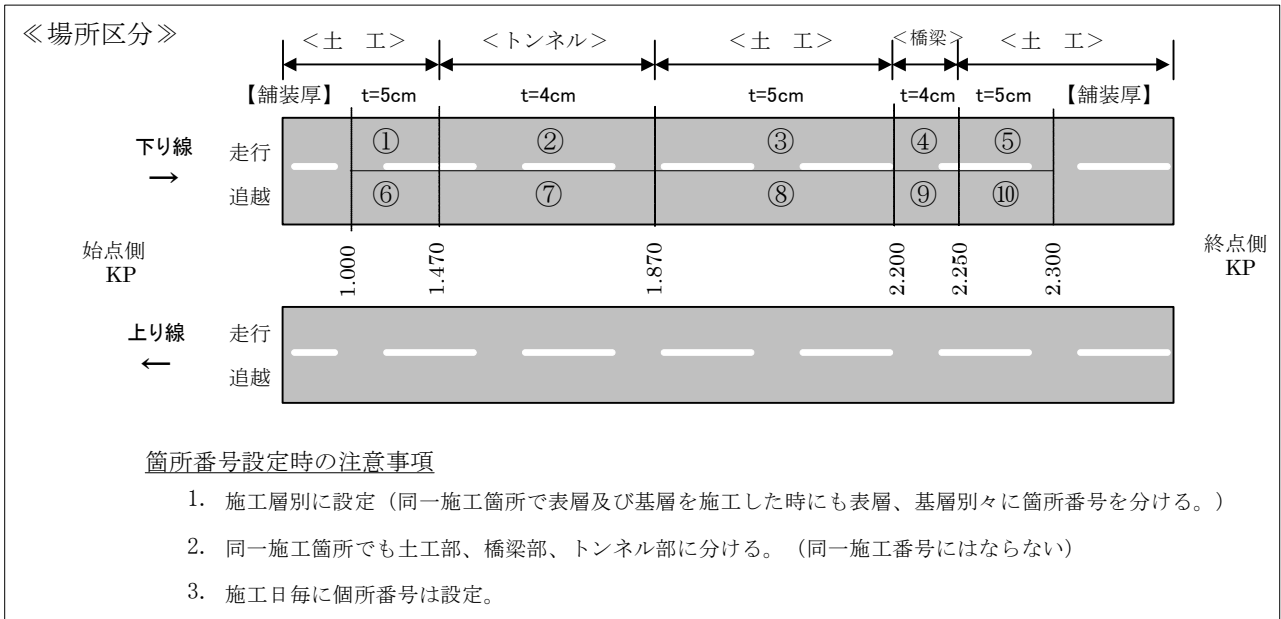
建設時における基本的な箇所番号の設定方法を下図に示す。



第5編 舗装

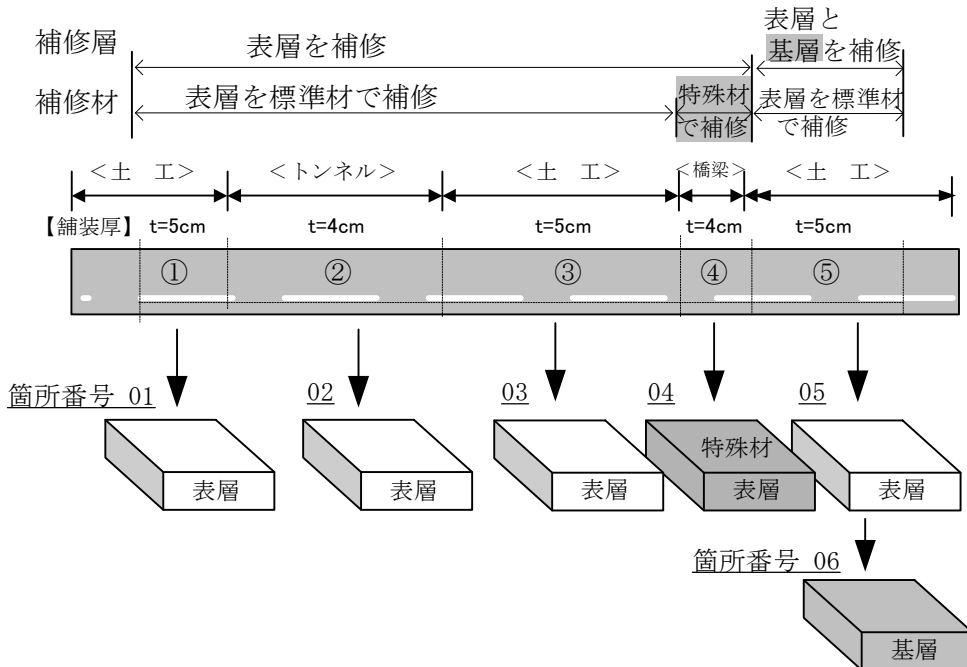
(2) 舗装改良工事、床版改良工事（舗装）

箇所番号の設置方法については、施工層別・場所区分・施工日毎に区分する。



(3) 補修時の構成

補修の箇所番号の付与は、表層の種類や舗装構成毎に箇所番号を付与する。



3-2 【削除】基本資料情報

## 3-3 工事情報

設計業務や工事で実施した舗装に関するデータを工事記録収集システムに入力するものである。

## 3-3-1 工事情報

「工事情報」の作成については、1工事毎に1件（1レコード）のデータを入力するものとする。例えば、施工区間が、3IC間に跨る場合は1件（1レコード）のデータを作成すること。

また、1IC間で2件名の工事が実施される場合は、登録番号(工事番号)が重複しないように工事番号を調整すること。

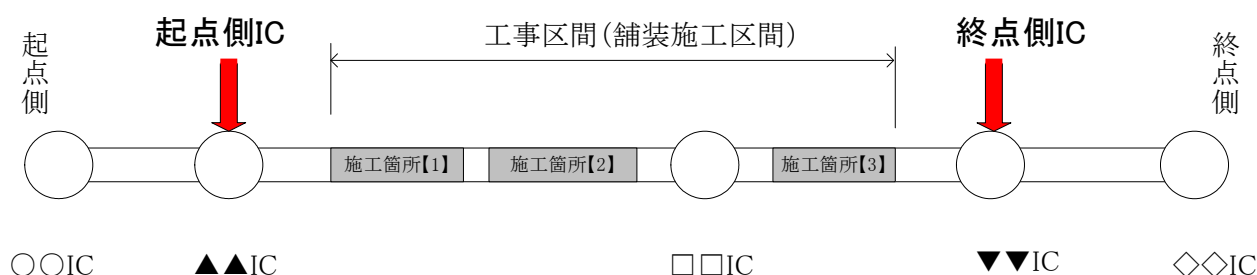
## (1) 登録番号

施設および区間を特定するための番号あり、1工事(件名)で1つ作成する。1工事件名で、施工区間が2IC間に跨る場合でも同じ番号とする。

## 【記入内容】

道路番号(4桁)+起点IC番号(3桁)+施工年度(西暦4桁)+工事番号(2桁)+施工区分(1桁)の14桁を入力する。

《登録番号での起点側ICと終点側IC》



## (2) 支社局

当該舗装施工区間を管理する支社局名をコードから選択して入力する。

建設時で管理する支社局名が未定の場合は、建設工事を担当する支社局名を入力する。

## (3) 事務所

当該舗装施工区間を管理する管理事務所名をコードから選択して入力する。

建設時で管理事務所名が未定な場合は、工事事務所名を入力する。

## (4) 道路

当該舗装施工区間が存在する道路の道路名をコードから選択して入力する。

## 第5編 舗装

### (5) STA・KP・NOの測点作成方法

登録番号で示した舗装区間の位置を示すものである。

建設時と補修時（供用後管理段階）では、測点の単位に相違があるため、測点の作成方法について以下に示す。

#### (a) 建設時

##### (ア) 建設\_STA（自）

当該舗装施工区間の起点側 IC の代表測点を入力する。

##### (イ) 建設\_STA（至）

当該舗装施工区間の終点側 IC の代表測点を入力する。

##### (ウ) 建設\_ランプ

当該舗装施工区間が、存在するランプ名称を A, B, C, D……で入力する。

##### (エ) 建設\_NO（自）

当該舗装施工区間が、存在するランプの起点側の測点を入力する。

##### (オ) 建設\_NO（至）

当該舗装施工区間が、存在するランプの終点側の測点を入力する。

#### (b) 管理

##### (ア) 管理\_KP（自）

当該舗装施工区間の起点側 IC の代表測点を入力する。

##### (イ) 管理\_KP（至）

当該舗装施工区間の終点側 IC の代表測点を入力する。

##### (ウ) 管理\_ランプ

当該舗装施工区間が、存在するランプ名称を A, B, C, D……で入力する。

##### (エ) 管理\_NO（自）

当該舗装施工区間が、存在するランプの起点側の測点を入力する。

##### (オ) 管理\_NO（至）

当該舗装施工区間が、存在するランプの終点側の測点を入力する。

### (6) 上下線区分

当該舗装施工区間が存在する現在の上下線区分をコードから選択して入力する。

### (7) ルート区分

当該舗装施工区間が存在する現在のルート区分をコードから選択して入力する。

### (8) 完成暫定区分

当該舗装施工区間が存在する道路供用時の完成暫定区分をコードから選択して入力する。

### (9) IC（自）

当該舗装工事区間が存在する IC 区間の起点側 IC をコードから選択して入力する。

- (10) IC (至)  
 当該舗装施工区間が存在する IC 区間の終点側 IC をコードから選択して入力する。
- (11) 施工\_支社局  
 当該舗装施工区間を施工する支社局名をコードから選択して入力する。
- (12) 施工\_事務所  
 当該舗装施工区間を施工する事務所名をコードから選択して入力する。
- (13) 設置箇所  
 当該舗装施工区間の設置箇所区分（本線、IC、SA 等）をコードから選択して入力する。
- (14) 連絡等施設  
 当該施工区間が IC・JCT に存在する場合の IC・JCT 名をコードから選択して入力する。  
 （本線の場合は無記入）
- (15) 休憩施設  
 当該施工区間が SA・PA・BS・CB に存在する場合の SA・PA・BS・CB 名をコードから選択して入力する。（本線の場合は無記入）
- (16) 施工年度  
 当該舗装を実施した年の年度の西暦 4 桁を入力する。
- (17) 工事番号  
 1 工事件名で 1 つ、起点側よりユニーク（重複しない）となる番号を 2 桁で付与する。  
 1IC 間で 2 工事件名以上の工事が実施される場合は、起点側 IC より終点側 IC に向かって、10, 20, 30・・・90 と付与するものとし、1 桁目についてはデータ追加等の際に活用するものとする。  
 また、当該工事番号については、前項目にある登録番号の 12、13 桁目に該当するものである。
- (18) 施工区分  
 当該工事施工区分（建設、修繕、改築）をコードから選択して入力する。
- (19) 契約番号  
 当該舗装工事の工事契約番号を入力する。



3-3-2 建設箇所

「建設箇所」のデータ作成は、建設工事若しくは、拡幅工事等の新設舗装の位置を入力するものである。なお、補修・修繕等を実施した舗装工事の位置は、「修繕箇所」で示す。

(1) 【削除】

(2) 建設箇所番号

1 工事件名内でユニーク（重複しない）となる番号を4桁までの整数で付与する。

番号の付与にあたっては、構造物・舗装種別・車線が同一で連続する舗装範囲を1区分とし、ユニークとなる番号を付与する。

箇所番号の設定については、「3-1 基本定義」を参照すること。

(3) 【削除】

(4) 【削除】

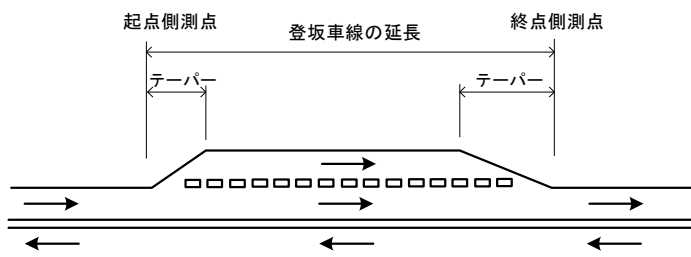
(5) 【削除】

(6) 【削除】

(7) 【削除】

(8) STA・KP・NOの測点作成方法

当該舗装施工区間（建設箇所番号）の端部を測点とする。登坂車線の場合は、テーパ一端～テーパ一端を測点とする。登坂車線の場合は、下図のとおりとする。



(a) 建設時

(ア) 建設\_STA (自)

「3-3-1. 工事情報 (5) (a) (ア) 建設\_STA (自)」で示した建設\_STA (自) と関連するものを入力する。

(イ) 建設\_STA (至)

「3-3-1. 工事情報 (5) (a) (イ) 建設\_STA (至)」で示した建設\_STA (自) と関連するものを入力する。

(ウ) 建設\_ランプ

「3-3-1. 工事情報 (5) (a) (ウ) 建設\_ランプ」で示した建設時\_ランプ名 (A, B, C, D, ……) と関連するものを選択して入力する。

(エ) 建設\_NO (自)

「3-3-1. 工事情報 (5) (a) (エ) 建設\_NO (自)」で示した建設\_STA (自) と関連するものを入力する。

(オ) 建設\_NO (至)

「3-3-1. 工事情報 (5) (a) (オ) 建設\_NO (至)」で示した建設\_STA (自) と関連するものを入力する。

(b) 管理

(ア) 管理\_KP (自)

「3-3-1. 工事情報 (5) (b) (ア) 管理\_KP (自)」で示した建設\_STA (自) と関連するものを入力する。

(イ) 管理\_STA (至)

「3-3-1. 工事情報 (5) (b) (イ) 管理\_KP (至)」で示した建設\_STA (自) と関連するものを入力する。

(ウ) 管理\_ランプ

「3-3-1. 工事情報 (5) (b) (ウ) 管理\_ランプ」で示した管理時\_ランプ名 (A, B, C, D, ……) と関連するものを選択して入力する。

(エ) 管理\_NO (自)

「3-3-1. 工事情報 (5) (b) (エ) 管理\_NO (自)」で示した建設\_STA (自) と関連するものを入力する。

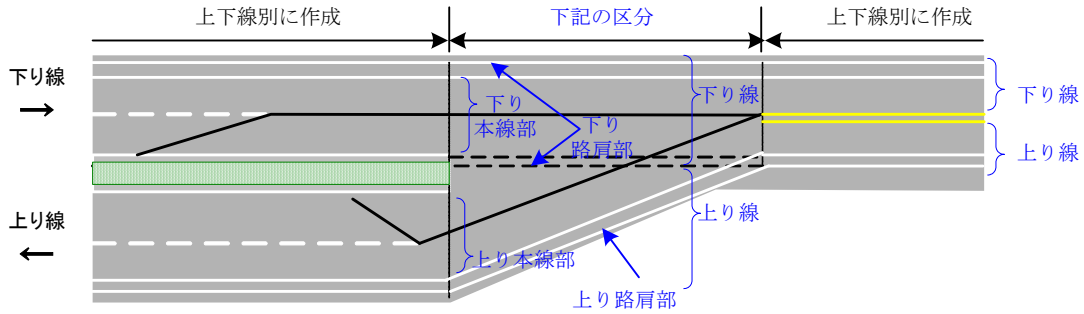
(オ) 管理\_NO (至)

「3-3-1. 工事情報 (5) (b) (オ) 管理\_NO (至)」で示した建設\_STA (自) と関連するものを入力する。

第5編 舗装

(9) 上下線区分

当該舗装施工区間(箇所番号)の現在の上线・下線をコードから選択して入力する。  
4車線から2車線すり付け区間での、上下線は下図の区分とする。



(10) ルート区分

当該舗装施工区間(箇所番号)の現在のルート区分をコードから選択して入力する。

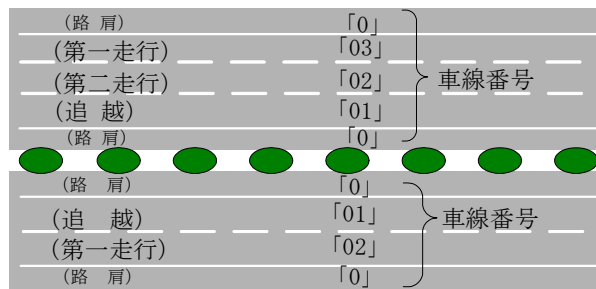
(11) 完成暫定区分

当該舗装施工区間(箇所番号)が存在する道路供用時の完成暫定区分をコードから選択して入力する。

(12) 車線番号

中分側より当該車線が、何番目に該当する車線かを数値入力する。

なお、路肩およびランプは、車線番号による区分は不要。(0を入力する)



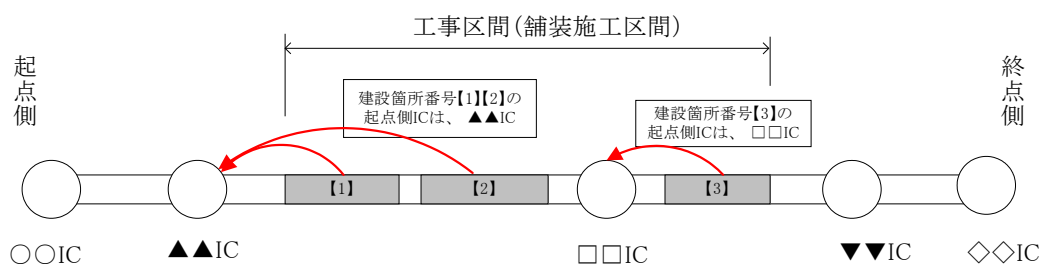
車線位置と車線番号

(13) 施工年月

当該舗装施工区間(箇所番号)の舗装工事が実施された施工年月を入力する。

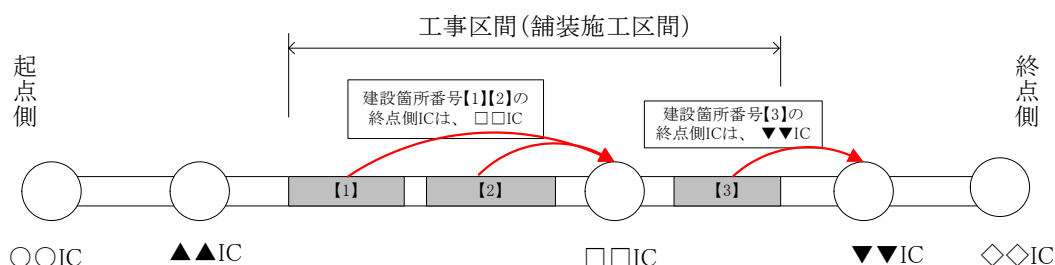
(14) IC (自)

当該建設箇所番号が、存在する IC 間の起点側 IC 名をコードから選択して入力する。



(15) IC (至)

当該建設箇所番号が、存在する IC 間の終点側 IC 名をコードから選択して入力する。



(16) 場所区分

当該舗装施工区間(箇所番号)の設置場所(本線部、路肩、SA 等)をコードから選択して入力する。

(17) 構造物

当該舗装施工区間(箇所番号)の道路構造(本線部分のみ「盛土、切土、橋梁、トンネル」を分類)をコードから選択して入力する。

(18) 舗装種別

当該舗装施工区間(箇所番号)の表層の種別による分類をコードから選択して入力する。

(19) 車線

当該舗装施工区間(箇所番号)が設置されている車線位置をコードから選択して入力する。  
(路肩、本線 1 走行、本線 2 走行等)

(20) 舗装面積

当該舗装施工区間(箇所番号毎)の面積(m<sup>2</sup>)を入力する。

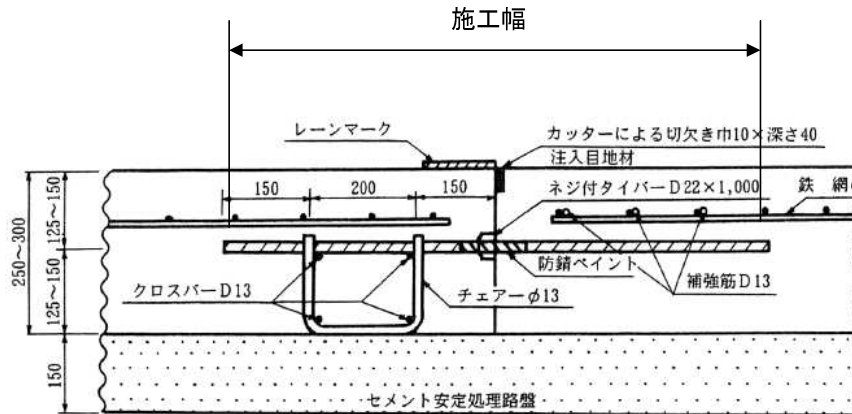
## 第5編 舗装

### (21) 目地延長

当該舗装施工区間（箇所番号毎）に設置した目地工（縦目地、横目地）の総延長（m）を入力する。

### (22) 伸縮継手面積

当該舗装施工区間（箇所番号毎）に設置した伸縮継手の面積を入力する。伸縮継手とは、目地工の延長に施工幅をかけた総面積（ $m^2$ ）を入力する。



### (23) IC等

当該舗装施工区間の場所がIC・JCTに存在する場合、IC・JCT名をコードから選択して入力する。

### (24) SA等

当該舗装施工区間の場所がSA・PA・BSに存在する場合、SA・PA・BS名をコードから選択して入力する。

### (25) 橋梁

当該舗装施工区間の場所が橋梁に存在する場合、橋梁名をコードから選択して入力する。

### (26) トンネル

当該舗装施工区間の場所がトンネルに存在する場合、トンネル名をコードから選択して入力する。

## 3-3-3 修繕箇所

「修繕箇所」でのデータ作成は、管理事務所等で実施した舗装工事の位置を入力するものである。なお、建設（拡幅）工事で実施した舗装工事の位置は、「建設箇所」で示す。

(1) 【削除】

(2) 修繕箇所番号

1 工事件名内で、ユニーク（重複しない）となる番号を4桁までの整数で付与する。

番号の付与にあたっては、構造物・舗装種別・車線が同一で連続する舗装範囲を1区分とし、補修層毎にユニークとなる番号を付与する。

箇所番号の設定については、「3-1 基本定義」を参照すること。

(3) 【削除】

(4) 【削除】

(5) 【削除】

(6) 【削除】

(7) 【削除】

(8) KP・NOの測点作成方法

当該舗装施工区間（箇所番号）の端部を測点とする。登坂車線の場合は、建設箇所（8）STA・KP・NOの測点作成方法を参照とする。

(a) 管理

(ア) 管理\_KP（自）

「3-3-2. 建設箇所（8）（b）（ア）管理\_KP（自）」で示した管理\_KP（自）と関連するものを入力する。

(イ) 管理\_KP（至）

「3-3-2. 建設箇所（8）（b）（イ）管理\_KP（至）」で示した管理\_KP（至）と関連するものを入力する。

(ウ) 管理\_ランプ

「3-3-2. 建設箇所（8）（b）（ウ）管理\_ランプ名」で示した管理\_ランプ名と関連するものを入力する。

(エ) 管理\_NO（自）

「3-3-2. 建設箇所（8）（b）（エ）管理\_NO（自）」で示した管理\_NO（自）と関連するものを入力する。

## 第5編 舗装

### (オ) 管理\_NO (至)

「3-3-2. 建設箇所 (8) (b) (オ) 管理\_NO (至)」で示した管理\_NO (自) と関連するものを入力する。

### (9) 上下線区分

「3-3-2. 建設箇所 (9) 上下線区分」で示した上下線区分と関連するものをコードから選択し入力する。

### (10) ルート区分

「3-3-2. 建設箇所 (10) ルート区分」で示したルート区分と関連するものをコードから選択し入力する。

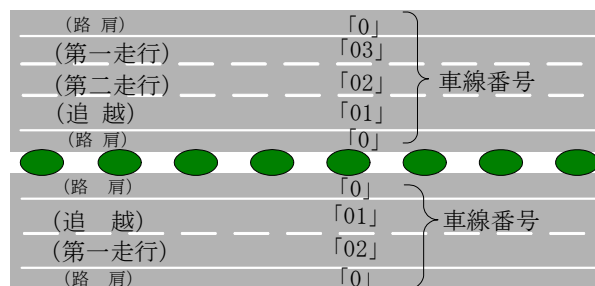
### (11) 完成暫定区分

「3-3-2. 建設箇所 (11) 完成暫定区分」で示した完成暫定区分と関連するものをコードから選択し入力する。

### (12) 車線番号

中分側より当該車線が、何番目に該当する車線かを数値入力する。

なお、路肩およびランプは、車線番号による区分は不要。(0を入力する)



車線位置と車線番号

### (13) 施工層

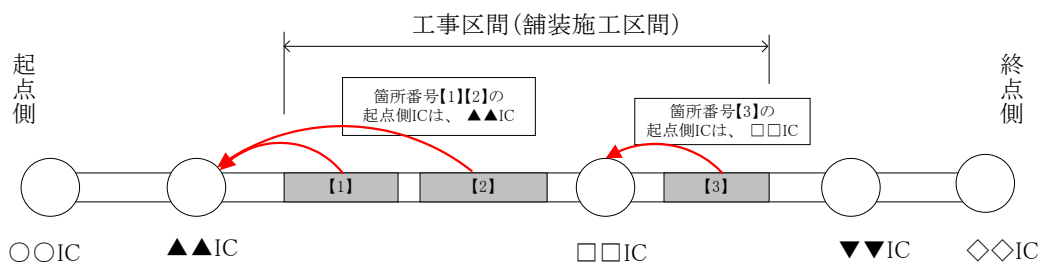
当該舗装施工区間(箇所番号)が、舗装構成のどの位置(表層、基層、上層路盤、下層路盤)かをコードから選択して入力する。

### (14) 補修年月日

当該舗装施工区間(箇所番号)の舗装工事が実施された施工年月を入力する。

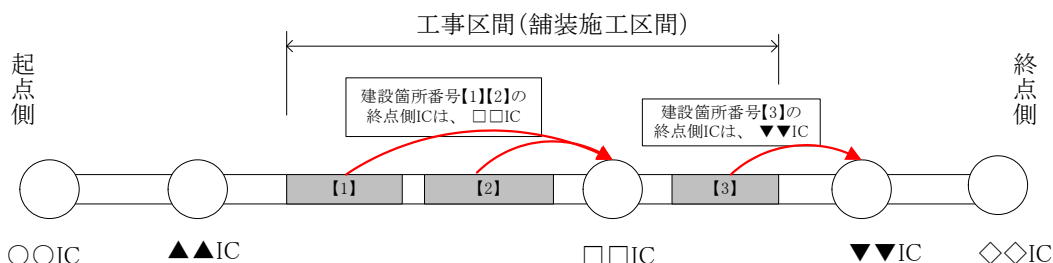
(15) IC (自)

当該箇所番号が、存在する IC 間の起点側 IC 名をコードから選択して入力する。



(16) IC (至)

当該箇所番号が、存在する IC 間の終点側 IC 名をコードから選択して入力する。



(17) 場所区分

「3-3-2. 建設箇所 (16) 場所区分」で示した場所区分と関連するものをコードから選択し入力する。

(18) 構造物

「3-3-2. 建設箇所 (17) 構造物」で示した場所区分と関連するものをコードから選択し入力する。

(19) 舗装種別

「3-3-2. 建設箇所 (18) 舗装種別」で示した場所区分と関連するものをコードから選択し入力する。

(20) 車線

「3-3-2. 建設箇所 (19) 車線」で示した場所区分と関連するものをコードから選択し入力する。

(21) 舗装面積

当該舗装施工区間(箇所番号)の面積 (m<sup>2</sup>) を入力する。



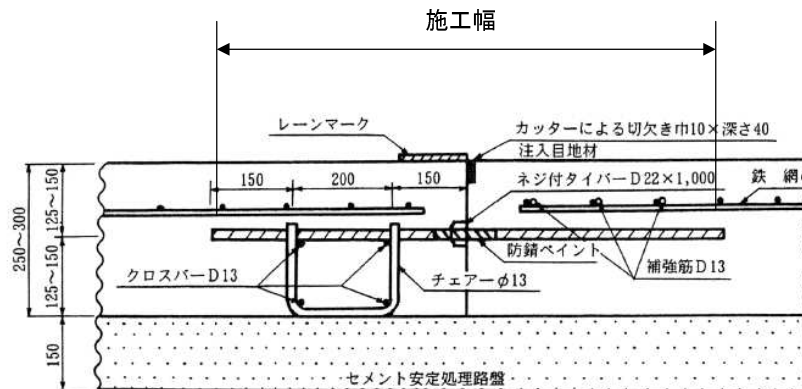
## 第5編 舗装

### (22) 目地延長

当該舗装施工区間（箇所番号毎）に設置した目地工（縦目地、横目地）の総延長（m）を入力する。

### (23) 伸縮継手面積

当該舗装施工区間（箇所番号毎）に設置した伸縮継手の面積を入力する。伸縮継手とは、目地工の延長に施工幅をかけた総面積（ $m^2$ ）を入力する。



### (24) 補修理由

当該舗装施工区間（箇所番号）の補修工事を実施した理由（損傷状況等）をコードから選択して入力する。（最大2つまで入力）

### (25) 補修工法

当該舗装施工区間（箇所番号）の補修工事で用いた工法（切削オーバーレイ、段差修正、わだち整正 等）をコードから選択して入力する。

### (26) 配合区分

舗装材の配合基準は、設計要領か舗装要綱を適用したのかをコードから選択して入力する。

### (27) 施工層の厚さ

当該舗装施工区間（箇所番号）における舗装の層厚（cm）を入力する。

## 3-3-4 設計データ

「設計データ」の作成対象は、建設工事若しくは拡幅工事等を実施した際に入力するものである。

## (1) 【削除】

## (2) 設計番号

当該舗装設計若しくは工事施工の中で、設計条件や舗装構成毎にユニーク（重複しない）となる番号を3桁まで付与する。

## (3) CBR

設計 CBR (%) を入力する。

## (4) 交通量

設計に用いた交通量（ $\times 10^6$  台）を入力する。

## (5) 換算舗装厚

設計要領等に基づき算出した設計時の舗装厚（cm）を入力する。

## (6) コンクリート版設計基準曲強度

設計要領等に基づき算出した設計時のコンクリート曲げ強度（Mpa）を入力する。

## (7) コンクリート版横目地間隔

設計要領等に基づき算出した設計時の目地間隔（m）を入力する。

## (8) 舗装・層種別

表層から下層路盤までを構成する舗装の種別をコードから選択して入力する。表層側を第1層として、以下に最大第7層までの層構造の種別とする。

## (9) 舗装・層厚

第1層の舗装種別で示す舗装の厚さ（cm）を入力する。

以下に最大第7層までの舗装種別で示す舗装の厚さを入力すること。

## (10) 総舗装厚

第1層から第7層までの舗装の厚さ（cm）の合計を入力する。

## (11) 路床・層種別

上部路床から路体までを構成する路床の種別をコードから選択して入力する。表層側を第1層として、以下に最大第4層まで入力すること。

## 第5編 舗装

### (12) 路床・厚さ

路床・層種別の第1層で示した路床の厚さ（cm）を入力する。最大第4層まで入力すること。

### (13) 路床・代表 CBR

路床・層種別の第1層で示した路床の代表とする CBR（%）を入力する。以下に最大第4層まで入力すること。

### (14) 路床・使用形態

路床・層種別の第1層で示す路床の材料の使用形態（単体、セメント安定処理、石灰安定処理、2種混合使用 等）をコードから選択して入力する。

以下に最大第4層まで入力すること。

### (15) 路床・使用材質

路床・層種別の第1層で示した路床に用いた材料の材質・種類（山砂、マサ土、シラス 等）をコードから選択して入力する。以下に最大第4層まで入力すること。

### 3-3-5 設計データ（箇所番号テーブル）

当該情報の作成は、「設計データ」を作成した際に入力するものである。本情報では、「建設箇所」と「設計データ」の関連を示すものである。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

3-3-6 舗装構成変更履歴

「舗装構成変更履歴」の作成は、修繕時に舗装構成を変更した際に入力するものである。

(1) 【削除】

(2) 舗装構成変更番号

舗装構成のパターン毎に、ユニーク（重複しない）となる番号を付与する。

当該舗装設計若しくは工事施工の中で、設計条件や舗装構成毎にユニーク（重複しない）となる番号を3桁まで付与する。

(3) 舗装・層種別

表層から下層路盤までを構成する舗装の種別をコードから選択して入力する。表層側を第1層として、以下に最大第7層までの層構造の種別とする。

(4) 舗装・層厚

第1層の舗装種別で示す舗装の厚さを入力する。

以下に最大第7層までの舗装種別で示す舗装の厚さ（cm）を入力すること。

(5) 総舗装厚

第1層から第7層までの舗装の厚さ（cm）の合計を入力する。

(6) 路床・層種別

上部路床から路体までを構成する路床の種別をコードから選択して入力する。表層側を第1層として、以下に最大第4層まで入力すること。

(7) 路床・厚さ

路床・層種別の第1層で示した路床の厚さ（cm）を入力する。最大第4層まで入力すること。

(8) 路床・代表 CBR

路床・層種別の第1層で示した路床の代表とする CBR（%）を入力する。以下に最大第4層まで入力すること。

(9) 路床・使用形態

路床・層種別の第1層で示す路床の材料の使用形態（単体、セメント安定処理、石灰安定処理、2種混合使用 等）をコードから選択して入力する。

以下に最大第4層まで入力すること。

(10) 路床・使用材質

路床・層種別の第1層で示した路床に用いた材料の材質・種類（山砂、マサ土、シラス等）をコードから選択して入力する。以下に最大第4層まで入力すること。

## 第5編 舗装

### 3-3-7 舗装構成変更履歴（箇所番号テーブル）

当該情報の作成は、舗装構成変更履歴を作成した際に入力するものである。本情報では、「舗装構成変更履歴」の関連を示すものである。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

## 3-3-8 アスファルト混合物

アスファルト混合物における骨材の粒度配合や現場試験等に関するデータを入力するものである。

## (1) 【削除】

## (2) アスファルト混合種別番号

アスファルト混合種別のパターン毎に、ユニーク（重複しない）となる番号を3桁までで付与する。

## (3) 層種別

当該アスファルト混合物の配合割合を示す舗装構成位置（表層、基層等）をコードから選択して入力する。

## (4) データ種別

当該舗装層の施工種別（高機能舗装、タイプA、レベリング等）をコードから選択して入力する。

## (5) 表層・基層 骨材配合割合 粗骨材 26.5 mm～13.2 mm（5号砕石）

当該舗装層（表層・基層）の粗骨材 26.5 mm～13.2 mmの配合割合（%）を入力する。

## (6) 表層・基層 骨材配合割合 粗骨材 13.2 mm～4.75 mm（6号砕石）

当該舗装層（表層・基層）の粗骨材 13.2 mm～4.75 mmの配合割合（%）を入力する。

## (7) 表層・基層 骨材配合割合 粗骨材 4.75 mm～2.36 mm（7号砕石）

当該舗装層（表層・基層）の粗骨材 4.75 mm～2.36 mmの配合割合（%）を入力する。

## (8) 表層・基層 骨材配合割合 細骨材 スクリーニング

当該舗装層（表層・基層）の細骨材 スクリーニングの配合割合（%）を入力する。

## (9) 表層・基層 骨材配合割合 細骨材 粗砂

当該舗装層（表層・基層）の細骨材 粗砂の配合割合（%）を入力する。

## (10) 表層・基層 骨材配合割合 細骨材 細砂

当該舗装層（表層・基層）の細骨材 細砂の配合割合（%）を入力する。

## (11) 表層・基層 骨材配合割合 フィラー

当該舗装層（表層・基層）の骨材 フィラーの配合割合（%）を入力する。



## 第5編 舗装

- (12) 表層・基層 骨材配合割合 フィラー 消石灰等の割合  
当該舗装層（表層・基層）の骨材 フィラーに消石灰等を用いた割合（%）を入力する。
- (13) 表層・基層 加熱後の指示粒度 37.5 mm  
監督員が指示した現場配合粒度を入力する。加熱後の指示粒度 37.5 mm のふるい透過率（%）
- (14) 表層・基層 加熱後の指示粒度 26.5 mm  
監督員が指示した現場配合粒度を入力する。加熱後の指示粒度 26.5 mm のふるい透過率（%）
- (15) 表層・基層 加熱後の指示粒度 19.0 mm  
監督員が指示した現場配合粒度を入力する。加熱後の指示粒度 19.0 mm のふるい透過率（%）
- (16) 表層・基層 加熱後の指示粒度 13.2 mm  
監督員が指示した現場配合粒度を入力する。加熱後の指示粒度 13.2 mm のふるい透過率（%）
- (17) 表層・基層 加熱後の指示粒度 9.50 mm  
監督員が指示した現場配合粒度を入力する。加熱後の指示粒度 9.50 mm のふるい透過率（%）
- (18) 表層・基層 加熱後の指示粒度 4.75 mm  
監督員が指示した現場配合粒度を入力する。加熱後の指示粒度 4.75 mm のふるい透過率（%）
- (19) 表層・基層 加熱後の指示粒度 2.36 mm  
監督員が指示した現場配合粒度を入力する。加熱後の指示粒度 2.36 mm のふるい透過率（%）
- (20) 表層・基層 加熱後の指示粒度 0.60 mm  
監督員が指示した現場配合粒度を入力する。加熱後の指示粒度 0.60 mm のふるい透過率（%）
- (21) 表層・基層 加熱後の指示粒度 0.30 mm  
監督員が指示した現場配合粒度を入力する。加熱後の指示粒度 0.30 mm のふるい透過率（%）
- (22) 表層・基層 加熱後の指示粒度 0.150 mm  
監督員が指示した現場配合粒度を入力する。加熱後の指示粒度 0.150 mm のふるい透過率（%）
- (23) 表層・基層 加熱後の指示粒度 0.075 mm  
監督員が指示した現場配合粒度を入力する。加熱後の指示粒度 0.075 mm のふるい透過率（%）
- (24) 加熱アスファルト安定処理 骨材配合割合 粗骨材 粒径 A 1  
加熱アスファルト安定処理層層の粗骨材の粒径範囲の最小値（mm）を入力する。

- (25) 加熱アスファルト安定処理 骨材配合割合 粗骨材 粒径A 2  
加熱アスファルト安定処理層の粗骨材の粒径範囲の最大値 (mm) を入力する。
- (26) 加熱アスファルト安定処理 骨材配合割合 粗骨材  
加熱アスファルト安定処理層の粗骨材の粒径が A1~A2 の配合割合 (%) を入力する。
- (27) 加熱アスファルト安定処理 骨材配合割合 粗骨材 粒径B 1  
加熱アスファルト安定処理層の粗骨材の粒径範囲の最小値 (mm) を入力する。
- (28) 加熱アスファルト安定処理 骨材配合割合 粗骨材 粒径B 2  
加熱アスファルト安定処理層の粗骨材の粒径範囲の最大値 (mm) を入力する。
- (29) 加熱アスファルト安定処理 骨材配合割合 粗骨材 粗骨材  
加熱アスファルト安定処理層の粗骨材の粒径が B1~B2 の配合割合 (%) を入力する。
- (30) 加熱アスファルト安定処理 骨材配合割合 細骨材  
加熱アスファルト安定処理層の細骨材 の配合割合 (%) を入力する。
- (31) 加熱アスファルト安定処理 骨材配合割合 フィラー  
加熱アスファルト安定処理層の骨材 フィラーの配合割合 (%) を入力する。
- (32) 加熱アスファルト安定処理 骨材配合割合 フィラー 消石灰等の割合  
加熱アスファルト安定処理層の骨材 フィラーに消石灰等を用いた割合 (%) を入力する。
- (33) 加熱アスファルト安定処理 骨材配合割合 一層の施工厚  
加熱アスファルト安定処理層の1層の施工厚 (cm) を入力する。
- (34) 加熱アスファルト安定処理 加熱後の指示粒度 37.5 mm  
監督員が指示した現場配合粒度を入力する。加熱後の指示粒度37.5mmのふるい透過率(%)
- (35) 加熱アスファルト安定処理 加熱後の指示粒度 26.5 mm  
監督員が指示した現場配合粒度を入力する。加熱後の指示粒度26.5mmのふるい透過率(%)
- (36) 加熱アスファルト安定処理 加熱後の指示粒度 19.0 mm  
監督員が指示した現場配合粒度を入力する。加熱後の指示粒度19.0mmのふるい透過率(%)
- (37) 加熱アスファルト安定処理 加熱後の指示粒度 13.2 mm  
監督員が指示した現場配合粒度を入力する。加熱後の指示粒度13.2mmのふるい透過率(%)

- (38) 加熱アスファルト安定処理 加熱後の指示粒度 9.50 mm  
監督員が指示した現場配合粒度を入力する。加熱後の指示粒度9.50mmのふるい透過率(%)
- (39) 加熱アスファルト安定処理 加熱後の指示粒度 4.75 mm  
監督員が指示した現場配合粒度を入力する。加熱後の指示粒度4.75mmのふるい透過率(%)
- (40) 加熱アスファルト安定処理 加熱後の指示粒度 2.36 mm  
監督員が指示した現場配合粒度を入力する。加熱後の指示粒度2.36mmのふるい透過率(%)
- (41) 加熱アスファルト安定処理 加熱後の指示粒度 0.60 mm  
監督員が指示した現場配合粒度を入力する。加熱後の指示粒度0.60mmのふるい透過率(%)
- (42) 加熱アスファルト安定処理 加熱後の指示粒度 0.30 mm  
監督員が指示した現場配合粒度を入力する。加熱後の指示粒度0.30mmのふるい透過率(%)
- (43) 加熱アスファルト安定処理 加熱後の指示粒度 0.150 mm  
監督員が指示した現場配合粒度を入力する。加熱後の指示粒度0.15mmのふるい透過率(%)
- (44) 加熱アスファルト安定処理 加熱後の指示粒度 0.075 mm  
監督員が指示した、現場配合粒度を入力する。  
加熱後の指示粒度0.075mmのふるい透過率(%)
- (45) アスファルト量1  
マーシャル安定度試験時のアスファルト量の配合割合(%)を入力する。
- (46) 突固め回数  
マーシャル安定度試験における突固め回数を入力する。
- (47) 理論最大密度  
マーシャル安定度試験時の理論最大密度(g/cm<sup>3</sup>)を入力する。
- (48) 見掛密度  
マーシャル安定度試験時の見掛密度(g/cm<sup>3</sup>)を入力する。
- (49) 表乾・かさ密度  
マーシャル安定度試験時の表乾・かさ密度(g/cm<sup>3</sup>)を入力する。

- (50) 安定度  
マーシャル安定度試験時の安定度 (kN) を入力する。
- (51) 空隙率  
マーシャル安定度試験時の空隙率 (%) を入力する。
- (52) フロー値  
マーシャル安定度試験時のフローメータの値 (1/100cm) を入力する。
- (53) 混合温度 1  
マーシャル安定度試験時のアスファルトと骨材の混合温度 (°C) を入力する。(適用範囲有り)
- (54) 突固め温度  
マーシャル安定度試験の突固め実施時の供体 (アスファルト混合物) 温度 (°C) を入力する。
- (55) 残留安定度  
水浸マーシャル安定度試験時の残留安定度 (%) を入力する。
- (56) 温度  
ホイールトラッキング試験時の試験温度 (°C) を入力する。
- (57) 動的安定度  
ホイールトラッキング試験結果より動的安定度 (回/mm) を入力する。
- (58) 最適アスファルト量  
ホイールトラッキング試験結果よりの最適アスファルト量 (%) を入力する。
- (59) アスファルト量 2  
監督員が指示した、現場配合時のアスファルト量 (%) を入力する。
- (60) 混合温度 2  
監督員が指示した、現場配合時の混合温度 (°C) を入力する。
- (61) 混合時間  
監督員が指示した、現場配合時の混合時間 (sec) を入力する。

## 第5編 舗装

- (62) 針入度級  
アスファルト針入度試験の針入度級をコードから選択して入力する。
- (63) アスファルトメーカー  
アスファルトメーカーを（出光興産、ENEOS等）をコードから選択して入力する。
- (64) 比重  
アスファルトの比重を入力する。
- (65) 針入度  
アスファルト針入度試験の針入度の実測値を mm で表した値（1/10mm）を入力する。
- (66) 軟化点  
アスファルトの軟化点（℃）を入力する。
- (67) 針入度指数  
アスファルトの針入度指数を入力する。
- (68) 薄膜加熱質量変化率  
アスファルトの薄膜加熱質量変化率（%）を入力する。
- (69) 薄膜加熱針入度変化率  
アスファルトの薄膜加熱針入度変化率（%）を入力する。
- (70) 薄膜加熱後の軟化点  
アスファルトの薄膜加熱後の軟化点（℃）を入力する。

3-3-9 【削除】 アスファルト混合物（半たわみ性アスファルト）

3-3-10 【削除】 アスファルト混合物（グースアスファルト）

3-3-11 【削除】 アスファルト混合物（改質・ロールドアスファルト）

3-3-12 【削除】 アスファルト混合物（高機能舗装）

3-3-13 アスファルト混合物箇所番号

「アスファルト混合物」で作成したアスファルトのデータと「建設（修繕）箇所」のデータとを関連付けるものである。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 箇所番号（建設・修繕）

「3-3-8. アスファルト混合物（2）アスファルト混合種別番号」で示したアスファルト混合物で、施工した箇所を「3-3-2. 建設箇所（2）建設箇所番号」、「3-3-3. 修繕箇所（2）修繕箇所番号」の箇所番号と関連付けるものの箇所番号を4桁までで入力する。

## 第5編 舗装

- 3-3-14 【削除】骨材
- 3-3-15 【削除】骨材箇所番号
- 3-3-16 【削除】粒状・セメント安定処理
- 3-3-17 【削除】粒状・セメント安定処理箇所番号
- 3-3-18 【削除】施工管理試験
- 3-3-19 【削除】施工管理試験箇所番号
- 3-3-20 【削除】コンクリート舗装
- 3-3-21 【削除】コンクリート舗装箇所番号
- 3-3-22 【削除】コンクリート舗装・骨材
- 3-3-23 【削除】コンクリート舗装・骨材箇所番号
- 3-3-24 【削除】コンクリート舗装・日常管理試験
- 3-3-25 【削除】コンクリート舗装・日常管理試験箇所番号
- 3-3-26 【削除】使用機械（混合）
- 3-3-27 【削除】使用機械（混合）箇所番号
- 3-3-28 【削除】使用機械（敷きならし）
- 3-3-29 【削除】使用機械（敷きならし）箇所番号
- 3-3-30 【削除】使用機械（締固め）
- 3-3-31 【削除】使用機械（締固め）箇所番号